

かわら版

ご自由にお持ち帰り下さい

もっといきいき健康に！ 地域がつながる医療と介護を目指して



絵/ザ・キャビンカンパニー

Contents	帰巖会みえ病院看護部の取り組み(外来・手術室)～「いつもと違う」に気づける外来診療を目指して～ …… 2
	地域の中の大嶋医院～治療だけでなくリハビリを含めた生活支援へ～ …… 3
	介護のこと、まずはここへ …… 3
	禪～たすき～ 帰巖会みえ病院 院長 小柳 雅孔 氏 …… 4 インフォメーション …… 4

帰巖会みえ病院看護部の取り組み（外来・手術室）

「いつもと違う」に気づける外来診療を目指して

帰巖会みえ病院事務長 井元 哲也

帰巖会みえ病院には毎日約200人（健診と透析センターを除く）の患者さんが受診している。その方々への対応の中核を担うのが、外来担当看護師である。

当院の外来・手術室の業務を担うスタッフは19名（パート職員含む）。特徴的なのは、臨床工学技士が2名専属で配置されており、手術室等に設置されている機器の管理を始め、手術中の医療機器の操作等の業務を行い、手術以外の時間帯は、一部外来業務の支援も行う。

今回は外来看護部の業務や目指す看護について、小野外来師長にお聞きした。

外来のスタッフに常日頃から心がけるよう伝えている内容はどの質問に、「病気だけではなく、その方の生活にも着目し、心身の小さな変化にも気づけるよう取り組んでいる」との回答がええってきた。

患者さんの変化を見逃さない

帰巖会みえ病院の外来受診患者の平均年齢は75歳。（ちなみに定期受診をされている方の最高齢は104

歳！）受診の間隔は概ね1ヶ月だが、高齢の患者さんは少し間が空くだけでも、前回の受診時と状況に変化が生じる事があるため、その僅かなサインを見逃さないよう顔色は勿論、歩き方や服装、表情などの観察を怠らないよう取り組んでいる。

「医師の前だと緊張もあり、気が張っている為、変化が分かりにくい事があります。診察中だけではなく、診察室までの足取りや表情などに目を配っています。迷惑をかけるのは申し訳ないと思われる方も多く、自ら困りごとを相談することが少ないため、何らかの違和感を感じたら、こちらから積極的に声をかけるようにしています」と師長。

外来看護師が異変に気づいた場合、本人へ声をかけ、まずはお話を伺う事から始める。話の内容からサービスの導入などが必要であると判断した場合はケアマネージャ（介護支援専門員）やMSW（医療ソーシャルワーカー）等の相談支援専門職を始め、時には離れて暮らすご家族とも情報共有し、医療・介護・福祉サービスへの橋渡しを行っている。

「当院はMSWやケアマネージャと

の情報共有もスムーズに行えるので、迅速に対応できていると感じています。何より患者さんから『相談して良かった。』と言って貰えると、とても嬉しく、励みにもなります。」

無理なく必要な検査を受けていただくために

その他にも、受診間隔の調整や、主治医へ定期的な検査計画の提案を行う事で隠れた疾患の早期発見・治療に繋がるような取り組みを行っている。

具体的には、高齢（特に80歳以上）の患者さんについては、特別な事情がある場合を除き、長期処方（3ヶ月間）を減少させる取り組みを開始。間隔が空くと、その間に起こる変化に気づきにくくなるためであり、受診間隔を空けない事で、心身の変化に早く気づけるようにとの視点からである。

検査についても、負担なく行えるように通常の受診日に合わせて調整するなど、年間を通して計画し、患者さんへの提案を行っている。

「特に内視鏡検査は年1回の実施

を薦めています。検査を受けるのに躊躇される方も多いのですが、内視鏡検査で発見される胃がんや大腸癌は早期発見の場合、5年生存率が90%以上と言われていますので、定期的な検査をお勧めしています。」

住み慣れた地域・自宅での生活を続けて頂くために

最後に、このような取り組みを進める中での、外来看護部の目標をお聞きした。

「困った時は帰巖会みえ病院に」という意識を患者さんや地域の皆さんに浸透させたいと思っています。心身の変化に早く気づくことで、病状悪化や心身機能の低下による長期入院や施設入所を遠ざけ、可能な限り住み慣れた地域・ご自宅での生活を続けて頂きたい。その為のお手伝いができればと言うのが一番の願いであり目標です。」



地域の中の大嶋医院

治療だけでなくリハビリを含めた生活支援へ

大嶋医院 看護師長 弓 真由美

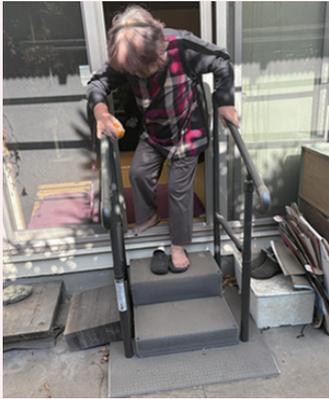
令和7年4月に「帰巖会 大嶋医院」として新たにスタートし、10月1日には病棟を再開しました。地域の皆さまからも再開を喜ぶ声を多くいただいています。現在は看護職員10名、リハビリスタッフ6名の体制で、最大19床の入院受け入れを行っています。

入院していただく主な理由としては、リハビリ目的・施設入所までの調整・レスパイト・医療処置や血圧コントロールなど多岐にわたります。今回は、入院から退院後まで一貫した医療・介護サービス支援ができた事例をご紹介します。

多職種連携による

在宅復帰支援

大南地域にお住まいの80代女性Aさんは、帯状疱疹による強い痛みが続く、他院で治療を受けていましたが改善が見られず、当院を受診されました。受診時には夜も眠れないほどの激しい痛みが続き、体力も消耗されていました。ひとり暮らしのため日常生活を送ることが難しく、心身ともに疲れ切った状態で入院となりました。



入院当初は「このまま神経痛が残るのではないか」という不安を抱えられていました。痛みが強いので、時間ごとの内服や点滴による治療を行い、リハビリはAさんの身体状況に合わせながら進めました。1ヶ月半近く痛みのコントロールを図り、最初は歩くことも困難でしたが、リハビリでの運動量も増加していき徐々に回復され、病室で読書をしたり、病棟内で自主トレにも励んでいました。

入院前のご自身で車を運転し、スポーツ（卓球やグラウンドゴルフ）をすることが趣味であり友人と快活に動かれていたというお話を伺っていました。退院に向けて、入院前の生活にスムーズに戻るよう、リハビリスタッフが自宅を訪問し生活動線や安全面を丁



寧に確認。退院後も不安なく過ごせるように看護師が退院指導を行いました。

その結果、Aさんは当院の外来診療と介護保険での短時間通所リハビリを利用しながら、以前のようになんにも住み慣れた大南地域の自宅で生活を送られています。

当院の目指す

地域医療のかたち

当院では、地域で暮らす皆さまが安心して暮らし続けられるよう、外来・入院・在宅（介護）を切れ目なくつなぐ医療・介護体制づくりを進めています。これからも身近で頼れる医療機関「帰巖会大嶋医院」として患者さんに寄り添った支援を行ってまいります。

介護のこと、まずはここへ

相談窓口を開設しました

令和8年1月、大嶋医院に併設して「居宅介護支援事業所」を開設いたしました。この事業所は、介護が必要になった方やご家族が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、介護に関するさまざまな相談をお受けする窓口です。

「これって介護の相談になるのかな？」

「ここに聞けばいいのかわからない」そんな時こそ、どうぞお気軽にお声かけください。介護保険の有無にかかわらず、年齢を重ねる中で生じる生活上の困りごとや将来への不安など、お一人おひとりのお話を丁寧に伺います。

必要に応じて、医療・介護・福祉の各支援につなぎながら、その方らしい暮らしをこの地域で続けていただけるようお手伝いしてまいります。ご本人はもちろん、ご家族からのご相談もお受けしております。大南地区の皆さまにとって、身近で安心できる相談先となるよう努めてまいります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

（コミュニティケアセンター大南 担当：橋本）





人から人へ絆で繋がっていく



帰巖会みえ病院

こやなぎ まさみち
院長 小柳 雅孔氏

みえ病院の院長として多忙な日々を送りながら、大分交響楽団の第一バイオリン奏者としても活動をしている小柳院長をご紹介します。

福岡市出身。九州大学医学部を卒業後、循環器内科医として九州大学や麻生飯塚病院（福岡県）で勤務。2000年から大分県で医療に携わり、2002年から約7年半ドイツ・フランクフルト大学病院に留学し、心臓や血管の再生医療研究に従事されました。帰国後は病院勤務と並行して大分交響楽団に参加し、現在に至ります。

バイオリンは小学2年生から始めましたが、中学進学後は勉学を優先し一度バイオリンから離れました。高校3年生の時に「人の役に立ちたい」と医師を志し、九州大学医学部へ進学。大学でも勉学を優先されましたが、卒業直前には先輩に誘われウィーンでオペラを鑑賞し、卒業式には参加しなかつ



たという印象的なエピソードもあります。また、留学先にドイツを選んだのは、音楽を身近に楽しめる環境を求めたため、演奏会やオペラを気軽に楽しみ、有意義な時間を過ごされたそうです。帰国後、縁があって参加した大分交響楽団。現在は定期演奏会やファミリーコンサートにも出演し、その選曲にも関わっております。

1月にはみえ病院内で新春コンサートを開催し、バイオリンの軽やかな音色が院内に心地よく響きました。入院中の方からは「いつもよりよく眠れた」という声もあり、癒やしの時間となったようです。「また



開催してほしい」という要望もあり、次の企画が楽しみにになります。

循環器内科医であり、病院長、そして演奏者としても活躍されている小柳院長。

多忙な日々の中で公私の切り替えについて何うと、特別に意識しているわけではなく、物事の優先順位を見極めながら自然な流れで進めているのだと話してくださいました。

その飾らない姿勢で多くを両立されている小柳院長の存在は、みえ病院にとって大きな支えとなっています。

マイナンバーカードの保険証利用について

2025年12月2日から**マイナ保険証**への本格移行が始まり、従来の健康保険証は2025年12月1日で有効期限を迎えました。

マイナ保険証をお持ちの方は**マイナ保険証**、マイナ保険証をお持ちでない方は**資格確認証**を病院窓口へご提示ください。

まだ、**マイナ保険証をお持ちでない方は、**

- **マイナンバーカードの取得**
- **マイナンバーカードの健康保険証利用登録**を行うようお願い致します。

マイナンバーカード(個人番号カード)



豊後大野エリア



帰巖会みえ病院
〒879-7111
豊後大野市三重町赤嶺1250番地1
TEL: 0974-22-2222



介護老人保健施設 泉の里
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1254番地1
TEL: 0974-22-7885



ケアホーム青いみちIKI本館
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1259番地
TEL: 0974-26-4170



ケアホーム青いみち
IKIおれんじ館
〒879-7111
大分県豊後大野市三重町赤嶺1259番地
TEL: 0974-22-0102



あさじ町クリニック
〒879-6222
大分県豊後大野市朝地町朝地906番地7
TEL: 0974-64-1234



清川巡回診療所
〒879-6903
大分県豊後大野市清川町砂田1877番地3
TEL: 0974-35-3561

臼杵・大分エリア



臼杵病院
〒875-0023
臼杵市江無田1154番地1
TEL: 0972-83-8100



ケアホーム竹あかり
〒875-0023
臼杵市江無田1154番地1
TEL: 0972-83-8110



大嶋医院
〒879-7501
大分市竹中2666番地
TEL: 097-597-0015